

# 1番最初に手を出したのは 何と 私服に着がえた運転助役さん

Z 2 2

2 0 0 9 . 5 . 2 2

J R 東海 労 東 二 運 分 会

**組合員のみなさん！ ユニオン・国労組合員のみなさん！**

わたしたち東海労は21日運輸所近くの交差点で、JR東海が行っている不当な組合活動への介入や、組合員加藤誠二さんの不当解雇の実態を市民に訴えるビラを配りました。

交差点でのビラ配りは12時頃からはじめましたが、何とその少し前から、直前まで当直で点呼を担当していた運転助役さん数名が私服でウロウロし出しはじめました。わたしたちがビラを配り出すと、待っていましたとばかりに「顔を知られていない」と思われる他職場の組合員から、催促するように手を出してビラを受け取りました。

昼時とは言え偶然とはとても思えないグットタイミングの遭遇でした。何と、わたしたちのビラを1番最初に受け取ったのは東二輪の私服の助役さんでした。科長さんもいました。

助役さんは泊まり明けの様でしたが、科長さんは（想像ですが）日勤のはず、勤務時間外（？）とはいえとても食事のための私服とは思えません。遠くて分かりづらかったものの、物陰から見え隠れしていたのも、どうやら科長さんのようでした。やはり、わたしたちの行動予定をどこからか聞き付けた、予定の行動だったのでしょう。だとしたら、わたしたちの行動、すなわち組合の行動に対する監視であり不当な介入です。たとえ「ビラを受け取っただけ」等と言っても通用しません。

ところで、わたしたちが同じ交差点でビラを配るのは初めてではありません。以前もグットタイミングの助役さんや科長さんはいましたが、しっかりと制服を着用していました。この変化はなぜ起きたのか不思議ですが邪推すれば、やはり制服着用で組合の行動を監視することが恥ずかしかったのかもしれない。それにも増して、わたしたちが訴えているように、JR東海が行っている異常な組合つぶしの実態が多くの市民に知れわたることを恐れたからかもしれません。

「見られてる お天道様に 腹のなか」 C D 頑 爺